



## 第29回土門拳賞受賞作品展

# RyUlysses

リュリシーズ

鈴木 龍一郎

その年の最も優れた写真家に与えられる土門拳賞(毎日新聞社主催)の第29回の受賞者は「RyUlysses リュリシーズ」の鈴木龍一郎さん。

アイルランドの作家ジェイムズ・ジョイスの「ユリシーズ」の影を追いながら、パノラマ・カメラを携えてダブリンの街をさまよい、過去と現在、生と死の境を追い求めた作品です。カメラの持つ独特のリアリティーも相まって、街そのものの息遣い<sup>せいひつ</sup>を、静かな深さ<sup>しづかさ</sup>をもってあますところなく捉えています。静謐なモノクロームが紡ぎ出す、饒舌な物語。惑乱と陶酔の迷宮へ。

2010年7月28日(水)→9月28日(火)

開館時間/午前9時～午後4時30分

入館料

○一般420円(360円)○学生210円(150円)

○小中学生100円(80円)[土・日、小・中は無料]※( )内団体料金(20名様以上)

主催:財団法人土門拳記念館 共催:酒田市

同時開催

土門拳「古寺巡礼/京都編」  
「土門拳の絵と書」

Ken Domon Museum of Photography

土門拳記念館



## 撮ることは 生きること (土門拳賞受賞の言葉)

栄誉あるおおきな賞を受賞して、喜びとともに賞の重さを感じています。ご選考をいただき、ありがとうございます。

高校生のころ、単独行の登山に夢中になっていた私は、大学に入ってから写真を始め、写真世界の持つ奥深さと不思議さにとり憑かれたのです。時おり覗きこむ深い虚無の海の底を往還しつつ、見知らぬアジアの街々の路地裏や、あるいはアイルランドの原野に独り立ってピントを合わせシャッターを切る時、自分が生きていると実感して来たのです。私にとって写真を撮ることは、生きることなのだと思えます。

ジェイムズ・ジョイスが「ユリシーズ」で人間の全体像を描き尽くそうと壮大な実験を試みたように、写真もまた、限りない可能性を秘めていると確信して新たな旅にむかいます。

撮影や写真集の制作にあたり、これまで私を支えてくれた多くの方々から心からの謝意を表します。

### 鈴木 龍一郎 (すずき・りゅういちろう)

1942年、東京生まれ。日本写真家協会会員。早稲田大学卒業後、フリーランスの写真家となり現在に至る。エディトリアルやCMの仕事をする一方、独自に印度や上海などのアジア各地やアイルランドなどの取材を続け、現在は撮影のほかに写真集やオリジナル・プリントの制作に力を入れている。写真集に「MOGUS 我が友モーガス」(文/C.W.ニコル 小学館)『オデッセイ』『ドルック』『リュリシーズ』(いずれも平凡社)など。75年「聖印度行」により第12回太陽賞、08年「オデッセイ」により日本写真協会年度賞、10年「リュリシーズ」により第29回土門拳賞を受賞。

## 鈴木 龍一郎 ギャラリートーク

7月31日(土) 午後2時～  
(先着50名、要電話予約)

会場/土門拳記念館 企画展示室Ⅱ

### 夜間開館

7月31日(土) 午後8時まで開館します。

ナイトミニコンサート ピアノのミニコンサートを開催します。

時間/午後7時～7時40分

会場/土門拳記念館内※入館料が必要です

Ken Domon Museum of Photography

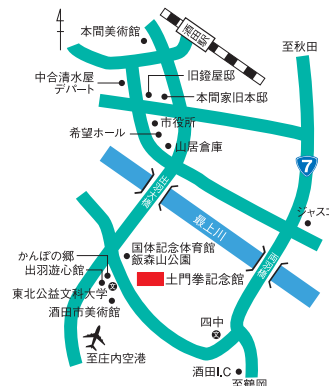
## 土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地(飯森山公園内)  
TEL・FAX. 0234-31-0028

<http://www.domonken-kinenkan.jp>

## 豆本 土門拳「ぼくと酒田」 復刻版発行のお知らせ

昭和51年刊行された「みちのく豆本」第69冊『ぼく』を全文復刻するとともに、昭和58年土門拳記念館開館記念として出版された『土門拳 手一ぼくと酒田』の一部等とを合わせた形で、新たに発行します。定価1,050円



●庄内空港より  
タクシー/約20分  
バス/約30分  
(東北公益文科大学下車)

●酒田駅より  
タクシー/約10分  
バス/約16分  
(土門拳記念館下車)

●お車の場合  
山形自動車道…  
酒田ICより5分  
(飯森山公園内駐車場を  
ご利用ください)